

毛根を用いた牛ウイルス性下痢ウイルス抗原 ELISA 検査法の検討

大川原志織^{1,2)}村山和範¹⁾安藤清彦^{2)†}西森朝美²⁾西浦玲奈²⁾松浦裕一²⁾

1) 新潟県中央家畜保健衛生所 (〒959-0423 新潟市西蒲区旗屋 686)

2) 国研農業・食品産業技術総合研究機構 動物衛生研究部門 (〒305-0856 つくば市観音台 3-1-5)

(2023年4月21日受付・2023年8月15日受理・2023年11月7日公開)

本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/76/11/76_e283/_article-char/ja

要 約

牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV) の持続感染 (PI) 牛検査において、スクリーニング効率向上を目的とした迅速かつ簡便な手法の検討は重要な課題である。今回、簡便に採材可能な毛根材料を用いて BVDV 抗原 ELISA 検査を実施し、毛根の本数や前処理条件が検査結果に与える影響を評価した。PI 牛3頭の毛根を用いた検討では、5本以上の毛根を用いることで3検体全てが、1本の毛根の場合は3検体中2検体が抗原 ELISA 陽性となった。毛根の処理液への浸漬時間の検討では、一晚 (12時間以上) 浸漬した際の数値と比較して、240分間の浸漬で90%以上、10~120分間の浸漬で約60%の S-N 値が得られることを確認した。これらの結果は、BVDV 抗原 ELISA の材料として毛根を用いる際のサンプル処理条件に関する基盤情報となると考えられる。

—キーワード: 抗原 ELISA, 牛ウイルス性下痢ウイルス (BVDV), 毛根。

-----日獣会誌 76, e283~e288 (2023)